うまれるとき

大学三年の冬、二十一歳のころ。深夜に突如決意してそのまま友人たちに会いに行き「映画監督になる」と告げた時のポカンとした表情を今でも覚えている。気持ちはわかる。今までそんなことを発言したこともなく、大学では建築を学んでいた。彼らの反応は正しい。

初めて映像をつくったのは大学四年。ネットで買ったビデオカメラを自分でまわし、友人に出演をお願いして（今や彼も一級建築士）二人きりで製作。いま観ると全身から変な汗が出てくる。ただ、あの満たされた感覚は未だに忘れていない。

それから十年。今までの作品を振り返ると、その背景には多くの人の顔が浮かぶ。作品はいつも、出会った誰かと自分との間に産まれてきた。タイミングは自分では計れない。この文章を書くことも、小学四年生のときに作文が書けなくて教室で泣いていた自分には想像もつかなかった。

映像を始めた頃はただ楽しかった。いまは、正直よくわからない。完成したときは達成感よりも「今回もなんとかできた」と消耗している。

それでも、この先で出会う誰かとまた何かをつくるのだろうと思う。

撮った人 ☀ 山口洋介／1986年 札幌出身 。映画監督。「下手くそ、はなさない」が映画祭で多数受賞、札幌スタイルにてDVD発売。
近作はHTB『平岸我楽多団』ショートドラマ「ファイト！」「少年のバス」、STV「北海道アンダースカイ2016 -Primary-」